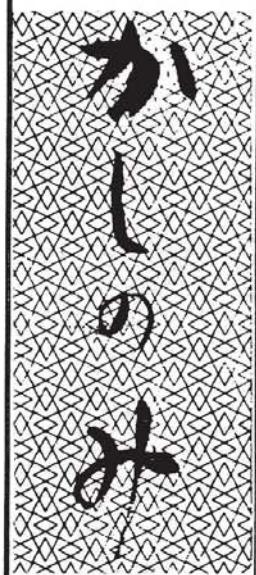


植生の遷移



新潟県山野草をたずねる会機関紙
第14号

会員数117名(12/4現)
事務局
長岡市下条町1406-6
印 刷
(有)佐藤印刷所
TEL 32-0681

新潟県山野草をたずねる会会長
(環境庁・環境カウンセラー)

小日向 孝

地球の長い歴史のなかで、氷河期以後現在までの約一万年の間、広い範囲にわたっての植生の分布や植生の発達を根本的に阻害し、かえるような気候の変化はこれまでありませんでした。しかし、局地的に洪水、山崩れ、火山の爆発、湖沼の有機物や土砂の堆積による陸化等の環境の変化と新しい環境の形成で植生はたえず変化しながら現在にいたっています。ある植物群落で、群落の構成種が変化して、他の植物群落におきかわることを遷移といいます。

★ 湿性遷移系列

湖沼等での土壤条件が、水中のヒルムシロ、コウホネ、ヒツジグサ等の水冠の日光のさえぎりなど生育地の環境変化や植生の様子がかわっていきます。

生植物や湖岸のカサスゲ、オオカサスゲ、ヨシ、ガマ、ヒメガマ、フトイ等の植物の枯死体が堆積し次第に陸化が進行していくよう、水中一多湿一湿性一中性立地へと乾燥していくのに対応してみられる遷移をいいます。

★ 乾性遷移系列

山崩れ、火山の噴出物等の乾燥した立地などで、先駆植物群落から、その土地の気候とつりあつた終局群落(極相)にいたるまでの、植生が土壤を形成し、形成された土壤がさらにその土壤におきかわることを遷移といいます。

遷移は、ある植物群落が発達して根群による母岩の風化や粗腐植の堆積、樹冠の日光のさえぎりなど生育地の環境変化や植生の様子がかわっていきます。

湖沼等での土壤条件が、水中のヒルムシロ、コウホネ、ヒツジグサ等の水

や植林放棄地等の進行性遷移を人為遷移(二次遷移)に区別されます。また、林内放牧や草刈り等の人為的干渉によりシバやササ、スキ草原に移行する逆性の後退遷移があります。土地の改変や破壊、植生への人々の干渉が続いているが、日本の遷移の最終段階としての極相植生は、広域的には常緑広葉樹林(ヤブツバキクラス)、夏緑広葉樹林(ミズナラーブナクラス)、亜高山性針葉樹林(コケモモートウヒクラス)、ハイマツ群落に大別されます。

今、求められていることは、人々を含めた全ての生物の生存環境の確保であり、持続可能な社会と掛け替えのない本物の緑(極相植生)の環境づくりであります。そのため人々の命と健康を保障してくれる地域固有の潜在自然植生の構成種によるふるさとの森(『いのちの森』)の回復と共生共栄にむけた取組みが必要です。

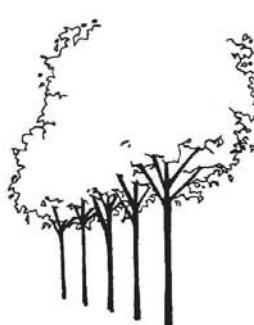
せり、水菜・・・の油炒め、かきどおり、こしあぶら・・のてんぶら、おひたしの数々。「あれがおいしい、それまだ食べてないから、これも、それとも食欲の鬼、春の芽ぶきを、生命力をお腹一杯に食べて、力がわいてきた。」
食後は真木のブナ林を案内してもらいました。
黄緑色の芽ぶきをしたブナが、うすもやの中で、すくすくと天に向って伸びていて、莊厳さ、神々しさというものが。また林の処々には残雪が、木々の下には一面にカタクリの花が、春待ちわび、ひつそりと咲いている。自然のすばらしさに言葉もなく、しばし、動けずにグループを離れて見とれていた一時でした。

さて、さっそく、山菜を食べる会を開きました。山菜をたずね、穫る食べる会と聞き、とても楽しみにして参加させてもらいました。
若い頃は、あまり寄せつけなかった山菜ですが、年を重ねるにつれ、春一番の味を心待ちにするようになります。

山菜を食べる会

田村 好野

今回の研修は、山菜をたずね、穫る食べる会と聞き、とても楽しみにして参加させてもらいました。
若い頃は、あまり寄せつけなかった山菜ですが、年を重ねるにつれ、春一番の味を心待ちにするようになります。



た。

小雨の中、先生の後に付いて、まず

栖吉の山を案内してもらいました。

入山と同時に、あの草も、この花も、芽もと、食れるものの多さに驚きました。又料理が楽しく、少々の雨など、気にもせず、みな夢中でした。

今想うこと

砂山 サイ

私は農村の真中に住んでいる。雪が消えると草が元気をだし、家の周りが緑になる。花が咲かないうちに草取りをしようと思っているが、つい穗がでてしまふ。脚、腰を叩きながらの悪戦苦闘である。除草剤で一吹きすれば翌日は枯れてしまうのだが。

家の裏に畑が百坪ほどある。その脇に川が流れ、川の向うに專業農家の畑がある。ある日その畑を見て、さすがすごいものだと驚いた。虫喰い一つなくきれいな野菜が育っている。お得意さんに売りにいく品物である。私の作った虫喰い野菜とは大違いである。スーパーでも流通ルートがよくなり、新鮮な野菜が所狭しと並べられている。

でもなぜか恐しくなった。農薬漬けで、こんなきれいな野菜ができるのかと思つた。

一年から田んぼの農薬をヘリコプターで全面散布をしている。以前は裏の川に、どじょうが白い腹をみせてはねていた。鮒、からす貝、カワニナ、タニシなどがいっぱいいた。又、田んぼ道を歩くと蝗が沸き上つたものだ。今は見つけることさえむずかしい。

今年の青年のメッセージで大賞をとった長岡農業高校の土田隆君が、有機栽培の野菜作りをやつてみたいと発表した。いつの日にそのようなすばらしい日がくるのか夢をみている。

早春の一日

金井 富子

昨日までの雨がうそのように晴れわたり、最初に、能生町の白山神社で、タブ、アカガシの自然林を観察し、特に大きな木の下に生きている植物が共生している事を知りました。又歌謡曲で有名になった二輪草とトリカブトの葉がよく似ていて、その見分け方を教えてもらいました。昼食は、総会をかねて外で行われ、和氣あいあいとして楽しいひと時でした。午後からは西山町、石部神社で見たシイの木は百年から三



出会い

小熊千恵子

私が通学しておりました中学校では、毎年夏休みになりますと、植物採集百五十点という課題が与えられました。私が植物に興味を持ち出したのはその頃からのような気が致します。

子供達が進学や就職で家を離れ、胸の中にぽっかりと空いた穴を埋めるべく入会した俳句の会で、歳時記というものを知り、歳時記の中にある四季折々の植物にひかれ、特に山野草に心ひか

ましさを感じ、下から見上げると木同様は枝のすみ分け（なわぱり）がはつきりしてて自然の中にも何か、おきてがあるように思えて不思議でした。裏山には、雪割り草、カタクリの花があり、ここは小学生が大切に自然を保護し、育てていると聞きました。子供の時からこのような気持ちを大切にしていけば、思いやりの心が育つと感じました。今回初めて参加させていただきました。今回初めて参加させていただきましたが、すばらしい出会いと発見もあり、しかもバスの中では楽しい会話もはずみ、有意義な一日でした。企画されました小日向先生はじめ、関係者の方々には本当にありがとうございました。

東山方面の研修会に 参加して

黒崎 喜代子

小雨を気にしながらの出発でした。はじめに長岡高校の門を入ると見事な枝ぶりのウラジロガシ、それよりや小ぶりのシラカシ。カシの木は常緑で常に酸素を供給して空気をきれいにし生命を支えてくれているとのこと。昔から「カシの木一本で三家族養える」と云われているとか。

常に見馴いでいたけど……身近な處で大切なものに出会つたような感じでした。次に蒼紫神社にお参りし、脇のアカガシをはじめて関心をもつて眺めました。参道を少し下ると左手の雜木林にキタコブシ。チゴユリは20cm位でした。が可憐な花が今から楽しみです。

普濟寺の裏山では雨に濡れて足をと

百年もの長い年月がたつた木で、たくましさを感じ、下から見上げると木同様は枝のすみ分け（なわぱり）がはつきりしてて自然の中にも何か、おきてがあるように思えて不思議でした。

志は枝のすみ分け（なわぱり）がはつきりしてて自然の中にも何か、おきてがあるよう

には、植物図鑑と首つなぎで下手な俳句を楽しんでおりましたところ、新聞でこの会を知り、早速、小中高校の同級生もあり、句友でもある鈴木好子さんをおさそいして、入会させていたのが一年前です。

一年前と言いましても、昨年は行事に二回しか参加できず、家庭と仕事の

しがらみを、うらめしく思ったことでただいたのが一年前です。

ただいたのが一年前です。

られないようとに気にしながらでしたので説明も「うわのそら」牧野様の墓地に出た時はホッとしました。昼食は採集したてのものでお汁、天ぷらと最高でした。40種類位の中ではじめて耳にする名も多くありました。最後のブナ林は体調もよくなかったのでバス、でも話によると、とにかく「すばらしい!!」の一言とか、チョットピリ残念に思いました。今まで無関心で通り過ぎてきた「植物の生きざま」について先生の説明でなる程と感心させられ、ほんの少しのぞいたばかりなのに、とても利口になつたよう嬉しくなりました。

山野草をたずねる会に入会して

神保 明子

私はこの会に入会して、日はまだ浅いのですが、早春の山野草を訪ねた研修で味わった感動が忘れられず、今回も胸おどらせ参加しました。五月十六日、この日は夜半から雷雨となり、朝になつても雨雲の多い寒い日でした。途中、学校や商店の敷地内で育つてゐる森を見学したあと、川西町二六公園のブナ林に行きました。丁度雨もあがつており、ブナの樹々のみずみずしい若葉と、白い幹のコントラストがとても美しく、見ごたえがありました。小日向先生から、植物の生きざまや、

平成11年度活動報告

★テーマ 植物の生きざまに学ぶ

1 早春の山野草を訪ねる会兼総会

- ・方面 西山
- ・期日 3月28日（日）

2 春の野を歩き山菜を食べる会

- ① 方面 東山 ・期日 4月25日（日）
- ② 方面 津南 ・期日 5月16日（日）

3 みどりを育てる会

- ① 樹木種子の播種（ポットに）・4月25日（日）
- ・5月16日（日）

4 夏の植物観察会兼合宿研修

（合宿研修）

- ・方面 糸魚川蓮華方面
- ・期日 7月24日（土）～25日（日）

5 秋の野に学ぶ（キノコの識別、同定及び木の実草の実を育てる会）

- ①・方面 上川
- ・期日 10月3日（日）
- ②・方面 津南
- ・期日 10月31日（日）・ドングリ拾い

6 学び合う会

- ・場所 長岡弓町1-5-1・アトリウム長岡
- ・期日 12月4日（土）

7 機関紙の発行

- ・第14号
- ・期日12月4日（土）

本物の森について話を聴き、雑木林の植物を観察しました。昼食は戸隠高原まで行き、山菜で天賞味し、腹も一杯になつた私は、後片づけを手伝つたあと、戸隠神社にも参拝してきました。雑木林に囲まれた山の上にある杜に向つて、長い石段を昇る。清流のせせらぎや、鳥の鳴き声が聞え又あちこちに、花の終つた山野草や、花をつけている草木が目にとまり、ここも又、四季折々の景観が参拝者の心を和ませてくれる事だらうと思いました。研修を重ねる度に、山が好きになつていく私です。これからも自然に親しみながら、植物の知識を広げていきたいと思っています。



六十路と山歩き

浅野 洋子

「山野草をたずねる会」と私の出合いは今年のある新年会であった。その会も私が六十路を過ぎてから仲間に入れてもらったのだった。そして又々山の会の仲間にしてもらつた。ようするに、野次馬根性旺盛のオバサンである。でも、その野次馬オバサンも夏の合宿の山歩きには感激してしまつた。

今までは主人と二人で気氛な山歩きだった。それも牛に引かれて善光寺詣りの山歩き。でも今年の糸魚川蓮華方面的旅はどこか違っていた。

私にとつてはとつてもハードなコースだつた事は事実。コースの終りにはヒーヒー言いながら歩いてやつとのゴルインだつたのに、疲れた身体をバランスでウトウトして宿に着いた時につけていた。

その夜の宴会のお酒の美味しかつた事、楽しかった事、そして山を歩いた時の清々しさが、今も残つてゐる。温かい先輩方の仲間になれ、自然の大切さを少し意識し始め、これから又、野次馬根性ムクムクの六十路オバサン、頑張ることが出来そうだ。あの疲れを丸ごと吸い取ってくれた大自然を大切にしなくては、と、今考

心に返った一時であろうか。

◎不動山

今回の研修最後の地不動山へと向う。春日山の前城である不動山城跡の山頂までは、二〇分程度で登る事が出来た。途中今回第二の研修主旨である、植物群落の調査を行う。

先生は山頂途中のころ合をみて「よしこの辺から登るぞ」と先陣を切り、山頂方向と違う草藪をかき分け入山する。そこはアカシデ群落で、調査面積三〇畝の中をくまなく探査。ブナ、アカシデ等その他高木六本、コシアブラ等低木十九本、ヤマユリ等三十三種を記録する。初参加の青柳さん星さんは大変熱心に先生の調査に協力され草木の種名を記録、観察されていました。

植物群落の調査も終え一路バスは長岡へと向う。途中米山フィッシングで先生（会長）より今回の研修旅行無事終了と十月行事案内等の報告後解散となる。

◎後記文

一泊二日参加者の皆様ほんとうにご苦労様でした。途中所用で別れた細川さんは皆様の名札を作成され、又電卓片手に会計担当の野上さん、そして宴会では美声を聞かせた吉田さん、想い出の写真撮影ご苦労様でした。役員の皆様二日間大変有がとうございました。

無事長岡まで事故もなく帰つて来たのも白馬大仏のご加護の賜と感謝しております。

合掌

蓮華の山葵

村本 則男

猛暑の始まりかと思われる七月二十六号）から平山を経て、北アルプスの名峰白馬岳の麓に位置する蓮華温泉へと向かう。二十数年ぶりに見る山小屋は、大きく立派なものに変わっていた。標高千五百メートル。蓮華登山者のオアシスといわれているロッジである。

車を降りて、早めの昼食を取り、蓮華自然の森へ。春には美しく咲いていたミズバショウも一メートル以上にのびている。ブナ、ミズナラ、ホオノキ、カエデが醸し出す自然の精気をたっぷり吸い込みながら歩く。

それでも暑い。ネズコの坂を汗を流しながら登るうちに、山間の沢の水にありついた。自然の山葵が群生している美水である。咽喉を通る美味しい水は麦の水に負けない。元気を取り戻しネズコの小道を登り下りするうちに、湿原が現われた。白く小さい花が愛らしいワタスゲやゴゼンタチバナ、流した汗に充分報いる自然のプレゼントだ。足元に注意しながら歩く。

蓮華最大の楽しみである露天風呂。黄金湯に到着。時間がない。ひき割り板で囲んだ湯に手足を入れ、汗拭く

のがやつと。ガスつてなければ、朝日に取るように見えるのに残念だ。風呂と眺望は次回の楽しみに車へと急いだ。

岳、雪倉岳、北アルプスの山並みが手に取るように見えるのに残念だ。風呂では本当に沢山のシラネアオイが群生しているのを見ました。山菜取りに行つてあまりのきれいさに手を休めて見つめてしまつた事が何度もありました。

私は山菜取りもきのことよりも大好きです。でも山のルールだけは大切に守りたいと思っています。山菜は根ごとに取らない。きのこは菌が残るようにはカゴを持ってゆく。ゴミは必ず持ち帰る。などほんの小さな事からやつていただきたいと思っています。

この会に参加させていただき、植物の名前をひとつづつ確実に覚え、きのこは食用と毒性の区別ができるようになりたいと思います。そして又、それを誰かに伝えてゆけたらと思っていました。今まで何げなく見ていた草花の名前を覚えて行く事が本当に楽しくなりました。

少し思うこと

中村 ゆきえ

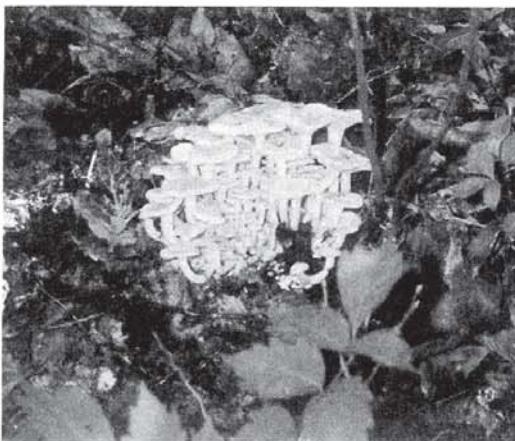


10月ときのこ

細川 章子

10月になると、夏中しまつに困るほど実った茄子も太らなくなってきた。「どうか、きのこが出るまで枯れないで」と茄子に頼んだ。自分で採ったきのこときのこ汁にして食べたくて。そうこうしているうちに10月3日が来た。津川でのきのこ研修会の日だ。

巴斯から降りるやいなや、舞茸をとつた人が出た。これは、出ている証拠だぞ、と弾みがついて逸る心を抑えながら



ら探した。とうとう、私もこの大群をみつけた。コガネホウキ草で食べられるとのこと。願が叶った。ひねた茄子も入ったきのこ汁が晩の食卓を賑わした。

10月20日。友人と時水城跡へ山遊びに行つた。下草が刈られた山道が雑木林の中を縫つて、なだらかに続く。口を開けたアケビの実に見とれていらうに、仲間がアワタケ、スギヒラタケ、アマンダレを道の近くで発見。袋に重いほど採れた。その晩はきのこ汁を味わつた。

10月31日。探鳥に栖吉の不動滝へ行つた。チッチッと声はすれど姿は見えない。聞きなしのできる人は24種も確認する。私は7種がやつと。黄色く熟したマタタビを食べながら下山しているうちに、アマンダレを見つけた。その晩もきのこ汁を楽しんだ。

茸との出会いの多かった10月でした。

自然の森で見た事感じたこと

長橋 美代

夏の蓮華温泉の旅、大変お世話様でした。始めての所でしたので何もかも新せんで珍しかったのですが小日向先生の話をよくきいて居なかつたのでうまくまとまるか心配ですが心にのこつた事を書いてみたいと思います。

一日目の自然の森観察で特に印象に残つたのは根上がりの大木でした。ヒバの仲間と言いましたでしょうか。まだかでないのですが、土が流れ根がむき出しになつても全エネルギーを木に注ぎ込み生きづける植物の生きざまに感動しました。またシャクナゲも一面と有りました。咲いた時みごとでしうね。

2日目は一番に行きましたヒスイ峡もとでもすばらしかつたです。不動山から眺めた北アルプスの山々もさすが山岳公園ならではの眺めでした。この気もちを折にふれ人様にもきかせてやりたいものです。

山もよかつたし帰りの海の眺めもよかつたです。なんと言つても天候にめぐまれまして帰りはあつかつたので柏崎でいたいたアイスクリームの味はかくべつでした。……

とりとめのない事ばかりで失礼しまして。来年の研修旅行をたのしみにして居ります。

ホタルが群れ飛ぶ日を いつまでも

曾山 和子

森とのかかわり

木曾 誠子

二年振りの参加は氣の合う人達と山の緑に包まれて、ほつとした気持ちを味わいたいとの思いから。数日前から新せんと心配ですが心にのこつた事を書いてみたいと思います。

一日目の自然の森観察で特に印象に残つたのは根上がりの大木でした。ヒバの仲間と言いましたでしょうか。まだかでないのですが、土が流れ根がむき出しになつても全エネルギーを木に注ぎ込み生きづける植物の生きざまに感動しました。またシャクナゲも一面と有りました。咲いた時みごとでしうね。

2日目は一番に行きましたヒスイ峡もとでもすばらしかつたです。不動山から眺めた北アルプスの山々もさすが山岳公園ならではの眺めでした。この気もちを折にふれ人様にもきかせてやりたいものです。

いい空気を沢山すつて記念写真をとつてもらい、登りの苦しみもふつとばしてここちよく下つきました。

山もよかつたし帰りの海の眺めもよかつたです。なんと言つても天候にめぐまれまして帰りはあつかつたので柏崎でいたいたアイスクリームの味はかくべつでした。……

とりとめのない事ばかりで失礼しまして。来年の研修旅行をたのしみにして居ります。



東京板橋区のある団地は二十数年前『森のあるマンション』ということで売り出されたそうです。それが今は大きな森に成長し、その森の手入れなど共同作業を通して、人と人との和が生まれました。人々はボランティアとして自分の特技を生かしたり、子供達も森林の昆蟲とふれあつたり、森の中をかけまわって遊ぶようになりました。

勿論、毛虫の被害や、下の階と上の階の住民の間では日照問題で意見が対立したり、様々な困難をのりこえて今日に至つているようです。

人は森とのかかわりの中で生きています。日頃生活の中で、目にする事もすっかり少なくなつてしまつた私達に季節を伝えてくれる生物達ツバメ・トンボ・カエル・ホタル・メダカ・ヘビそしてそれ等を育む森・樹木・草花・きのこ・水・陽、この大きな自然のサイクルは驚きです。この時節の落葉も、次世代への大切な贈物。全ての生命の源であるこの自然環境を、人間はどのように次世代へ引き渡して行けるものか心配です。私の年令も五十才を過ぎ季節に例えれば秋です。そこでこの日を温かく自然に向け、少しでも学びたいと思います。サクラシメジ・ホウキタケ・ミネシメジ・ヤマアカダケを収穫しました。小日向先生に感謝の一日でした。

1999年(平成11年)6月17日(木曜日)

第20360号 総合版

平山知事が「緑の百物語」と銘打つ本年度スタートさせた植樹運動。長岡市民を中心活動を続けてきた「県山野草をたずねる会」の小白向委員長は、この運動に先立ち十年以上も前から「ふるさとの森」について進めてきた。単に美しい木を植えるのではなく、その土地にともと生えていた木を植え、自然を回復していくという試みだ。緑があふしいこの季節、昨秋採取したドングリが、小さな鉢から元気に芽を出し伸び始めた。

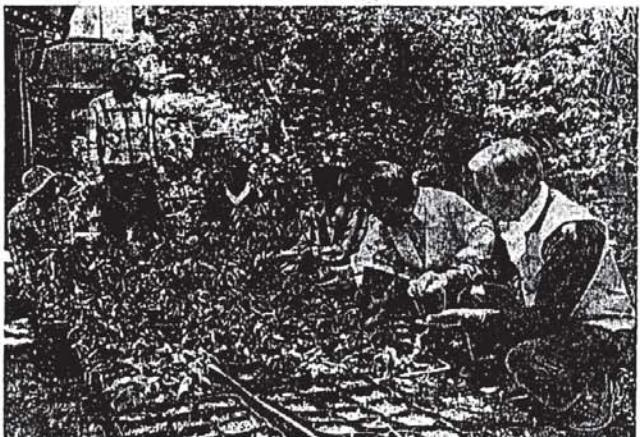


話題・情報は0258(34)9630

同市下条町の小白向さん
宅では、芽を出したシラカ
ガ、プラスチックの容器に入
れてひつじがくらべられていた。
集まった会員た
れで、「こんなに元気に育つ
て早く植えたいわね」と
会話を弾む。

植樹の輪を ふるさとに

ドングリやブナなど
土地の木で自然回復



市下条町
同会が発足したのは十七
年前。中学校の教頭でもあ
る小白向さんはこれまで十
数校の小中学校をはじめ、
長岡市の平和の森や病院の
庭などに植栽してきた。会

芽が出たばかりの木を見
ながら談笑する「県山野
草をたずねる会」=長岡

市下条町
会員たちも、神社の境内
に残っているドングリの実
を秋に採取し、それぞれ自
分の庭などに植樹してい
た。

同市下条町の小白向さん
シ、ウラジロガシなどの美
い木を植えるのではなく、
その土地にともと生えていた
木を植え、自然を回復してい
く。何がその地域にともと
生えていたのか、きちんと
自然への理解が深まる」と
意識を話す。

会員たちも、神社の境内
に残っているドングリの実
を秋に採取し、それぞれ自
分の庭などに植樹してい
た。

長岡の「県山野草をたずねる会」

員もそれまでの植物観察のほかに、平成三年から森づくりに取り組み始めた。

同会が「はじめてきたの
は「本物の森」がやうだ。
見栄え重視の桜や、街路樹

環境カウンセラーにもなった
小白向さんは「新潟県は
自然が豊かといつても、杉
やヒノキなどの人工林が多く
い。何がその地域にともと
生えていたのか、きちんと
自然への理解が深まる」と
会話を弾む。

会員たちも、神社の境内
の森は四畝幅の土地があ
る。昨年は計千個ほどの種
を撒いた。昨年は計千個ほ
ど三千本を植えました。今
では五六株ほどになっ
た。冬場でもしないで、自
然が楽しめます」と話す。

課題は「ふるさとの森」
運動をやりまして市民に理解
してもらおうか。庭以外の
土地としては学校の空き地

を借りて、やがてはウロジ
ロガシやアカガシなどの常
緑樹を中心とした群落に変
わっていく。標高が百㍍を

越すような所ではブナの森
になるという。標高が百㍍を
越すような所ではブナの森
になると、自然が楽しめます」と話す。

会員の一人、小千谷市の主婦細川章子さんは「これまで家の庭にシラカ

新潟日報

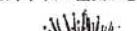
「いのちの森との共生を目指して」

夏の合宿研修の参加者寄せ書き

白馬温泉に漫って想うこと '99. 7. 24

☆ 石楠花尾根のネズコとヒメコマツ生きる力の素晴らしさ 小日向

☆ 私にとってはキツイ時間でした、でも来られない所へ来て見られて良かったと思います。山の空気がとてもおいしかったです。 渡辺



☆ 怪我も無く楽しい一日でした
石楠花の花の咲く頃もう一度来て見たいことです。
白馬岳がガスで眺めることが出来ず残念でした 米山芳江

☆ 楽しいことが一番うれしい、石楠花峰の花を空想して、
いつか又、来られますように。 田近



☆ 三時間もの自然林浴、完歩できたことにとても満足しています。
一步一歩お仲間の方々にはげまされ、素晴らしい風景、木、花に
見守られたら歩けるものと知り、とても幸せな一日でした。
有難う御座いました。 田村



☆ いろいろな植物に出会えて楽しかったです。ホテルでは貴重な経験?をさせて頂きました。 末広の間一同



☆ 露天風呂じゃないのに虫と一緒に湯につかったのは始めてじゃないかな。
毎年一人は人を呑むといわれる、あばれ姫川、大変な困難を乗り越えて、
温泉を守っている人達がいることに感謝しつつ、ゆっくり湯にひたりました。

細川翠子



☆ 憧れの蓮華温泉、お天気に恵まれて良かったです。時間が許せば露天風呂を浴びたい所でした。 清水 今井 田島

清水 今井 田島

☆ 第一回目の参加が十三年前の八月、その時の名簿を見て先生と私の二人だけとは年月の過ぎ去ることに今更びっくりしております。今年は無理かと思いましたが頑張って最高の思い出が出来、本当に良かったです。

栗山

☆ 蓮華の森自然歩道で出会いの、ゴゼンタチバナ、ホトトギス、ツバメオモト、カラマツソウ、モミジカラマツ
タムラソウ、アサヒラン、その他沢山の植物との出会いは楽しかった。完歩後、宿での湯舟で疲れも飛んで、
宴会の席も楽しみ倍増でした。残り一日頑張るぞ。 高砂の間一同

(?達筆の?) 皆さんの寄せ書きが 紙面の都合で其の便、ご披露できず残念でした。 編集委員

編集後記

今年は、多くの新人の方々からご寄稿いただきました。新人の方々の新鮮な感動が伝わってまいります。また、合宿研修参加者の当日の思いを寄せ書き風に掲載してみました。さらに、私達の活動が新潟日報に大きく取り上げられておりますのでコピーや載せておきました。お読み下さい。
△小幡・木曾・細川△

